

教育心理学の起源をさぐる —師範学校における Mental Philosophy—

大芦 治 (千葉大学)

キーワード: 心理学史, 師範学校, スコットランド学派

問題と目的

教育心理学者の多くは、教育心理学という領域がいつごろどのように成立したか、ほとんど知らない。そこで、発表者は、この度、教育心理学の起源と発展の歴史について調べてみようと思い立った。今回は、その結果の一部を報告してみたい。

一般に教育心理学の創始者として知られているのは J.F. Herbart (1776-1841) である。これは、彼が、彼がその著「一般教育学」のなかで「科学としての教育学は、実践哲学と心理学に依存する、前者は陶冶の目的を示し、後者はその道と危険を示す」と述べた (船山, 1987) ことによると思われる。しかし、今日の教育心理学と Herbart の哲学との間に直接的な結びつきはほとんどない。

教育心理学や心理学史の概論書で Herbart の次に教育心理学の歴史に関する記述があるのは、E. L. Thorndike (1903) が「Educational Psychology」のテキストを著したことについてである。こちらは、学習、評価などを軸とした内容で、今日の教育心理学のベースにもなっている。この著書は、出版されると、ほどなく教員養成教育の標準的なテキストとして広く使われることになった。すなわち、この時点では、教育心理学という領域が成立していて、大学の授業も行われていたことがわかる。

ここからいえるのは、教育心理学という領域は、Herbart (1806) の著書と Thorndike (1903) のテキストとの間のおよそ百年のどこかで生まれ、形成されたと推定できることだ。しかし、既存の概論書にはこの間の歴史に関する記述は何もない。

以上のような現状を踏まえ、発表者は以下のようなことを検討してみたい。すなわち、

(1) 教育心理学が、Herbart の著書が出た 1806 年から Thorndike の著書が出版された 1903 年までのどの時点で誕生したのか、そして、(2) それがどのような変遷、発展を遂げながら Thorndike の教育心理学に至ったか、ということである。

方 法

まず、文献の少ないこの領域でまとめた総説のようなものはないか検索してみた。その結果、この時代の教育心理学の歴史について有益な情報がまとまって得られそうな文献は、D. C. Charles による以下の 2 件しか見当たらなかった。

1. A historical overview of educational psychology. (Contemporary Educational psychology, 1976, 1, 76-88.)

2. The emergence of educational psychology (J. Glover, & R. Ronning eds. 1987 Historical foundation of educational psychology, Plenum. Pp. 17-38.

結果と考察

この 2 件の文献では、思想的な系譜をたどりながら教育心理学の歴史を探ることは事実上放棄されていた。その代わりに Charles がとったアプローチは、アメリカの (主として師範学校で行われた) 教員養成教育のなかで、心理学に関する科目がいつごろから、どのようにして開講されてきたかをたどってゆくことであった。最古の心理学関係の科目として確認できるのは、1839 年、マサチューセッツ州のレキシントン師範学校で開かれたもので、“Mental philosophy” というタイトルだった。ただ、その後の発展は遅々たるもので、次に類似の科目の開講が確認できるのはアイオワ大学師範学部 (normal department) で 1866 年に、さらに、ミズーリ大学師範カレッジ (College of Normal Instruction, University of Missouri) で 1869 年に、それぞれ、“Mental Philosophy” が開講されるのを待たねばならなかった。また、“Mental Philosophy” という名称から想像されるように、これらの科目はスコットランド学派の哲学をベースとするもので教養教育を志向する側面が強く、今日の教育心理学とずいぶん異なるものであった。教員養成教育に心理学 (psychology) という科目が開設されるのは 1880 年代を待たねばならなかった。